

## 【導入】 15章のここまでの歩みと、今日の箇所へ

---

私たちはこれまで、Iコリント15章を一緒に読んできました。この15章では「復活」が取り扱われており、「死者のよみがえりなどない」という人々に対して、パウロたちが今まで宣べ伝えてきた福音は、キリストの復活を宣べ伝えるものであったこと、そして、そのキリストの復活には多くの目撃者がいたこと、さらに復活がなければ、信仰も宣教も無意味になってしまうことが語られていました。そして、先週の箇所では、復活によって与えられるからだは、御霊のからだであり、栄光のからだであることを確認しました。

そして、この「復活についての章」のクライマックスとして、今日の51～58節があります。

私たちは4週間に渡って、復活について学んできました。しかし、ここで改めてみなさんに確認したいことがあります。みなさんは、この復活についてのみことばを、今の自分に関係することとして聞くことができているのでしょうか。

この章は、多くの場合、お葬式の時か、イースターの時、もしくは召天者記念礼拝の時に読まれます。なぜならば、そのような時の方が、「死」というものを強く意識することが出来るからです。では、この15章のみことばは、「死」に直面している人以外には意味のないみことばなのでしょう。決して、そんなことはありません。

なぜならば、聖書がおしえるよみがえりの出来事は、その時、まだ死んでいなかった人たちにも関係がある出来事だからです。キリスト者のよみがえりが、どのように今、生きている私たちに係わってくるか、聖書から教えられていきたいと思えます。

## 【第一部】 「変えられる」という奥義 (51-56節)

---

### ◆ ポイント① 「みな」変えられる—誰が？ (51-52節)

51節を読みましょう。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。

「聞きなさい」—これは命令形です。「ちょっと聞いてほしい」という程度ではなく、「これは絶対に聞き逃してはならない」という迫力を込めた呼びかけです。

そして「奥義」—これは「秘密」という意味ではありません。「今まで隠されていたが、今や神様が明らかにしてくださった真理」のことです。

その奥義とは「みな眠るわけではありませんが、みな変えられます」ということです。一この「眠る」とは、普通の睡眠のことではなく、キリスト者の死を指す表現です（Iテサロニケ 4:13）。ここで聖書が言いたいのは、「キリストが再び来られる時、すでに亡くなっている信仰者だけでなく、その時に生きている信仰者も変えられる」ということです。

「みな眠るわけではありません」「みな変えられます」と、「みな」が繰り返し語られていることからわかるように、この変化は信じている全ての人に与えられるものです。

どんなに大きな罪を犯したとしても、どんなに罪を繰り返していたとしても、信仰的に未熟であったとしても、すべてのキリスト者が、終わりのときにキリストによって変えられるのです。だから、いままで復活の教えとして見てきた一連の出来事は、その時、みなさんが死んでいなかったとしても、与えられる恵みであり、そういう意味では今、生きている私たちにも当てはまることなのです。

だから、復活は、ただのよみがえりではなく、その時に生きているキリスト者にも与えられる究極の変身なのです。

## ◆ ポイント② 「一瞬で」変えられる一どのように？（52 節）

では、その変身はどのように起きるのでしょうか。52 節

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

「たちまち、一瞬のうちに」—これは原文のギリシャ語では「アトモス」という言葉が使われています。「アトモス」とは、これ以上分割できないほど短い時間を指す言葉で、まばたきする間よりもさらに短い。まさに一瞬の間に、私たちが変えられるのです。

信仰を持っているみなさんは、洗礼を受ける前の学びの中で、キリストによって与えられる救いには「義認」「聖化」「栄化」という3つの救いがあることを教えられたと思います。

「義認」とは、イエス・キリストを信じ、【主】イエス・キリストによる十字架の贖いと復活を信じた時に、神様から無条件で義と認められるという、信じたその時に与えられる救いです。

「聖化」とは、イエス様を信じて、キリスト者になった者が、この世において【主】に従って歩むなかで、少しずつ、キリストに似た者として徐々に聖められ、変えられるという、現在進行形で与えられる救いのことを指します。

そして「栄化」とは、キリストによって復活させられるときに、栄光の体に変えられることであり、完全なキリストの似姿に変えられることを指します。52 節がいう一瞬のうちに変えられるというのは、この「栄化」のことを指しています。（52 節表示）

キリスト者は、イエス・キリストを信じ、神の子として歩いていく中で少しずつ、聖められ、少しずつキリストに似た者となっていきます。でも、完璧な姿にはなれません。どんなに信仰歴が長い人であったとしても、どんなに敬虔で、信仰熱心な人であったとしても、この終わりの時の

一瞬の変化を経験するまでは、どこか不完全、未熟で、足りないところが必ずあるものです。

でも、みなさん、その足りなさを見て落胆しないでください。なぜならば、【主】は必ず皆さんを完全な姿、栄光の姿、前回の箇所でするところの御霊のからだへと、一瞬のうちに変えてくださる時が必ずくるからです。

### ◆ ポイント③ 「朽ちないものへ」変えられる一何へ？ (53 節)

そして、この一瞬の変化の結果、私たちはどのようにになるかという 53 節

15:53 この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。

つまり「朽ちないからだ」に私たちは変えられるのです。これは永遠に生きるからだであるのと同時に、もう二度と衰えることがないからだに変えられることを意味しています。

みなさん、私たちのからだは時間が経てばどんどん衰えますね。わたしは 40 代になって一番強く感じたのは、この衰えでした。からだが若い時のように動かないのはもちろんのこと、記憶力や判断力、活力も若い時のようにはいかないことを強く感じて、実は、一時期すごく落ち込んでいました。でも、私たちが【主】によって栄光のからだに変えられるとき、私たちは霊的にも肉的にも二度と衰えることのない、朽ちないからだを着ることになるのです。

ここで「必ず着ることになり」とありますが、-この「必ず」というギリシャ語（デイ）は、神様の計画において絶対に必要であることを表す言葉です。私たちが、「朽ちないからだを着る」ということは、神様のご計画の中に確実に組み込まれている出来事であり、願望でも可能性でもなく、「必ずそうなる」という絶対的な約束です。

また、ここでは「着る」という表現が用いられていますが、これは私たちは、私たちのままで、その上で栄光のからだを与えられることを意味しています。時々、栄光のからだに変えられる、御霊のからだにかえられる。すべてが新しくされる。という、それでは今、生きている自分が別人になってしまうかのように思う人がいます。そして、そのことを恐れる人がいます。でも、怖がらないでください。みなさんは、みなさんのままで、その上で栄光のからだを着せられて変えられるのです。罪の性質とか、肉体的弱さとか、霊的不完全さとか、そういったものは完全にかえられますが、みなさんが、別人になるわけではありません。本多民生は、本多民生のままで、みなさんは、みなさんのままで、死の影響を一切受けることがない、朽ちないからだに変えられるのです。

### ◆ ポイント④ 「死は勝利に飲み込まれる」—その結果は？ (54-56 節)

だからこそ、パウロは 54 節から 56 節で「死」に対する勝利を宣言しています。

15:54b 「死は勝利に呑み込まれた。」

15:55 「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」

これは旧約聖書の預言—イザヤ書 25 章とホセア書 13 章—の預言の成就として語られています。神様はずっと昔から、死に対する勝利を約束しておられました。そして、それが復活のときに成就するのです。

ここで注目していただきたいのは、56 節です。

**15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。**

この 56 節は、少し唐突に見えるかもしれませんが、ここにキリストによって与えられる最高の変化の奥深さが語られています。

私たちはなぜ、死ななければいけないのでしょうか？ それは最初の人アダムが神様に逆らって罪を犯したからです。だから、死が私たちにとって恐ろしいのは、それが罪の結果だからです。「死のとげは罪」ということばは、そのことを指しています。

では、「罪の力は律法」というのは、どのような意味でしょうか。ここで誤解しないでいただきたいのは、パウロは律法が悪いものだとは言っていないということです。ローマ人への手紙の 7 章でパウロはこう言っています。

**ローマ 7:12**

ですから、律法は聖なるものです。また戒めも聖なるものであり、正しく、また良いものです。

律法そのものは神様が人に与えてくださった聖なるものであり、良いものです。

問題は、その聖なる律法には、罪人の罪を明確にし、その人が罪人であることを責める役割があるということです。罪は律法によって、そのことが明らかにされ、その問題を解決しなければいけないと責められます。

しかし、終わりのラッパが響き渡って、私たちが新しいからだ、栄光のからだに変えられるとき、私たちはもはや死のとげである罪によって傷つけられることも、律法によってその罪が責められることも無くなるのです。なぜならば、その時、私たちの中には一切の罪がなくなるからです。

つまり、この復活の時の変化によって、私たちはただ死が取り除かれただけではなく、私たちが傷つける罪も、その罪を明らかにして私たちが責め立てる律法の力も、完全に無力にされ、私たちは一切の傷も、責めも負うことの無いものへと変えられるのです。

みなさん、キリストによる勝利は、「死」という症状だけではなく、罪という死因も、律法による責めという恐れも、全部解決してくださるのです。

だからもし、みなさんの心の中に、自分の罪深さ、足りなさを責め続ける声があるのであれ

ば、その責めも、罪による傷も、キリストの十字架においてすべて解決され、もはや、みなさんにとって無力な力のないものにされていることを思い出してください。

コロサイ 2 章 13 節と 14 節にはこうあります。

#### コロサイ 2:13b-14

死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

神様は、キリストによって死のとげをすでに抜いてくださいました。だから、律法によって明らかにされる罪も、キリストとともに十字架に釘付けにされ、私たちは死を恐れる必要も、律法によって責められる必要も一切ないのです。

### 【第二部】 「感謝します」という信仰の応答 (57 節)

---

このすばらしいキリストによる勝利を受けて、パウロは、57 節でこう叫びます。

15:57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

「しかし」—この一語が、私たちの決定的な変化をしめしています。律法と罪と死という絶望の中に、「しかし」と神様の恵みが割り込んでいます。

みなさん、パウロがこの手紙を書いた時点で、彼は死んでいたのでしょうか？ 死んでいません。では、彼はすでに世の終わりのラッパを聞いていたのでしょうか？ いいえ、聞いていません。だから、当然、パウロは復活の体も経験していません。それなのに彼は「神は・・・私たちに勝利を与えてくださいました。」と言っています。

ただ、誤解しないでいただきたいのは、パウロはこれを過去の恵みとして語っているのではなく、現在も与えられている恵みとして語っていることです。日本語訳だと「勝利を与えてくださいました。」となっているので、まるで過去の出来事としてパウロが語っているように思えますが、元のギリシャ語を直訳するとこのようになります。

#### 15:57 直訳

しかし、神様に感謝。神様は、私たちにその勝利を与えておられる方であり、それは私たちの主イエス・キリストを通してである。

私たちが栄光のからだへ変えてくださる神様は、キリストによって、世の終わりのラッパの時だけではなく、今も私たちに勝利を与えておられるお方です。

だからこそ、パウロは終わりのときのキリスト者の変化を語りつつも、「しかし、今、神様に感謝！」と叫んでいるのです。

みなさん、復活は、将来のことだけでなく、今、すでにキリストを通して、神様が私たちに勝利が与えておられることに繋がるのです。だから、私たちも、今、この時、パウロと同じように「神様に感謝」せずにはいられないのではないでしょうか。

みなさん、パウロといっしょに「神様、感謝します」と声をあげましょう。

「神様、感謝します」

そう、私たちは、本当に感謝な勝利を、神様によって、そして、キリストによって与えられています。

### 【第三部】 「だから、今日も立て」という招き (58 節)

---

だからこそ、パウロは、今のキリスト者に向かって、この恵みへの応答を具体的に勧めています。58 節を読みましょう。

15:58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。

このみことばも、ギリシャ語を直訳したほうがわかりやすいかもしれません。

#### 15:58 直訳

それゆえ、私の愛する兄弟たち、堅固で動かされない者であり続けなさい。いつも【主】のわざにおいて（その恵みに）豊かにあふれていなさい。あなたがたの労苦が【主】において空しくないことを知っているからです。

( ) 内の「その恵みに」というのは、補足です。パウロはここで最初に「堅固で動かされない者であり続けなさい」と命じています。コリント教会に当てはめると「死者のよみがえりなどない」といった偽りの教えに騙されないで、復活の希望を持ち続けなさい。ということでしょう。

様々な情報があふれる現在において、私たちの信仰を惑わす言葉や情報が、私たちの周りにはいっぱいあります。中には、私たちと同じ信仰を持っている。キリストを信じていると言いながらも、聖書が教えていないことを語る人もいるでしょう。しかし、私たちはそういったことばに騙されることなく、復活の信仰を持ちながら、キリスト者としての道を歩みつづけていくのです。それは一つのところに留まるというよりは、終わりの時に完全な姿に変えられるまでは、不完全なものであったとしても、【主】の教えに留まり続けるようにチャレンジし続けなさい。という積極的な命令です。

そして、その上で、【主】のわざに励み、【主】の栄光が私たちを通して溢れ出るように歩んでいくのです。では、その【主】のわざとはなんなのでしょうか？ 色々いうことができると思いますが、私たちはまず、今年の年間聖句を思い出してみましよう。この手紙にかかっている「いつまでも残るもの」とは何でしょうか？ そう、信仰、希望、愛です。その中で一番すぐれているのは？ 「愛」です。だから、私たちは愛のわざに励みながら、【主】の栄光をあふれさせていくのです。

私たちが愛を実践するとき、その報いはこの世で受けることができないのが殆どでしょう。

神様がなさる愛はアガペーの愛であり、与える愛ですから、寧ろ、この世から見返りを求めるものではありません。でも、神様は私たちの労苦をしっかり見てくださり、終わりのときに、復活によって大きな報いをくださるのです。

だから、私たちは、感謝と喜びをもって、正しい信仰に堅く立って、揺り動かされることなく、ひたすらに【主】の業である愛のわざに励んでいきたいと思えます。

## 【結論】 最高の変身に感謝して、今日を生きる

---

今日、私たちはIコリント15章のクライマックスから、キリスト者に約束されている「最高の変身」を見ました。それは、ただ将来の慰めではありません。神様が、主イエス・キリストによって、死と罪と責めに対する勝利を、すでに今、私たちに与えていてくださるという福音です。だから私たちは、自分の弱さや不完全さを見て絶望するのではなく、やがて【主】が完成してくださることを見上げて歩むことができます。

私たちは今もなお、衰えを感じます。罪との戦いもあります。心が責められることもあります。しかし、今日のみことばははっきり語ります。終わりのとき、【主】は私たちを一瞬のうちに変えてくださいます。朽ちるものを脱がせ、朽ちないものを着せてくださいます。そしてその約束は、未来だけの話ではなく、今の私たちの生き方を支える確かな希望です。だから、今日の応答は「恐れ」ではなく「感謝」です。パウロとともに、私たちも言いましよう。「神様、感謝します」。

そして、その感謝は、口先だけで終わりません。感謝は生き方になります。だから私たちは、復活の希望に堅く立ち、揺り動かされず、いつも【主】のわざに励むのです。愛すること、祈ること、仕えること、赦すこと、忍耐すること——そうした一つ一つの歩みは、目立たなくても、【主】にあって決して空しくありません。神様は、私たちの労苦を見ておられ、終わりの日に確かに報いてくださいます。

ですから、みなさん。最高の変身が約束されている者として、今日も顔を上げて歩みましょう。自分の足りなさではなく、キリストの勝利を見つめましよう。そして、感謝をもって、愛のわざに励みましよう。神様は、主イエス・キリストによって、今も私たちに勝利を与えておられるお方です。